市立函館博物館館報サラニップ

SARANIP

No.42 2003.3.31

沿海地方国立アルセニエフ博物館との姉妹提携

－新たなる博物館交流－

平成14年７月28日、函館市市制施行80周年記念、ウラジオストク市姉妹都市提携10周年記念を飾る記念事業の一つとして、市立函館博物館と沿海地方国立アルセニエフ博物館との間で博物館姉妹交流の調印が行われました。調印式は、函館市青少年研修センターを会場にアルセニエフ博物館のG.A.アレクシュク館長、S.S.ルスナク研究員をお迎えし、北海道・東北史研究会シンポジウム「日本の北方地域と北東アジア」のセレモニーに函館市民をはじめとするおよそ１５０名の参加者を募り盛大に執り行われました。

博物館姉妹提携の調印は、これまでの函館市とウラジオストク市との歴史的経緯を踏まえ、両市市民および関係者の友好関係と文化交流を一層推進するため相互の博物館交流の発展と協力をはかる趣旨のもと、函館市教育委員会金山正智教育長、アルセニエフ博物館アレクシュク館長により覚書が手交されました。

博物館の姉妹提携の具体的内容は、刊行物、情報の交換、各専門分野における共同研究、共同企画案に基づく展覧会、シンポジウム等の開催などにおよび、先ず実現可能な事業から着手しその成果を着実に積み重ねていくことを確認しました。また、調印式に引き続きルスナク研究員による「函館－ウラジオストク：歴史的関係と協力の展望」と題する記念講演が式典に華を添えました。はじめの一歩。北東アジアを視野に入れた博物館交流をキーワードとした新たな函館、ウラジオストク両市民の友好、文化交流のはじまりです。

＜沿海地方国立アルセニエフ博物館の概要＞

沿　革：1890年９月30日　開館
　　1945年９月４日　館名にB.K.アルセニエフ名を授与
規　模：５つの分館と在沿海地方の国、市町村立博物館を統合、調整する主要センター（沿海地方最大の学術・文化センター）
収　蔵：42万７千点（歴史・文化的記念物等）
観覧者：年間40万人以上

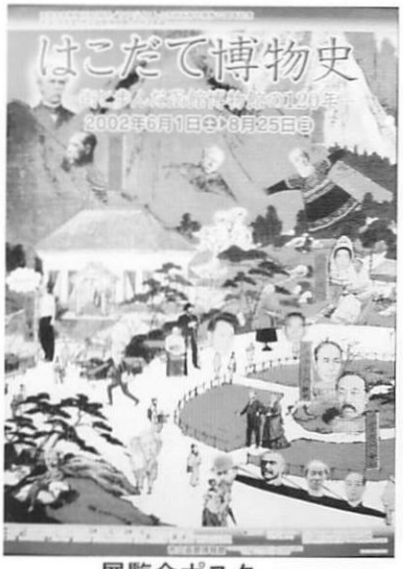
長谷部　一弘

平成14年度特別企画展報告

長谷部　一弘

はこだて博物史

－街と歩んだ函館博物館の120年－



展覧会ポスター

平成14年６月２日から８月25日のおよそ３ヶ月にわたり、市立函館博物館本館において、函館市市制施行80周年を記念して特別企画展「はこだて博物史－街と歩んだ函館博物館の１２０年－」が開催され、函館市民はじめ修学旅行生、観光客など3,７４７名におよぶ大勢の観覧者で賑わいました。

このたびの展覧会は、明治12年開拓使仮博物場が開場して以来、今年で１２４年目を迎える函館博物館のこれまでの歩みをたどりながら、これからも街と歩むべく函館博物館の在りようを探るいわば「まるごと地域の中の函館博物館」をテーマとした企画展です。展示内容は、これまで函館博物館が函館の街とそこに住む人々と関わり合ってきた過去・現在・未来という時間軸の中で、「明治・大正時代と博物場」、「昭和・平成時代の博物館」、「時代に活きる博物館」を小テーマに掲げ、ひとと博物資料を媒介とした博物館が地域にどのように関わって、何をもたらしてきたかを垣間見ながら、これからの博物館が函館の街の中でどう活かされていくのか、次世代に向けた新たな博物館像の答え探しの第一歩ともなりました。

全館あげての展示室には、１２４年の長きにわたる函館博物館の歴史を物語るかのように開場以来収蔵してきた当館の所蔵資料を中心にブラキストン関係資料など函館博物館ゆかりの資料が一堂に並べられ、時折総合学習で訪れる子供たちの真顔で資料をのぞき込む目線に気付いたとき、資料が街とともに紆余曲折の時代を活きてきた博物館と博物館のこれからのことを語りかけているように見えたのは確かです。

平成14年度特別展報告

佐藤　智雄

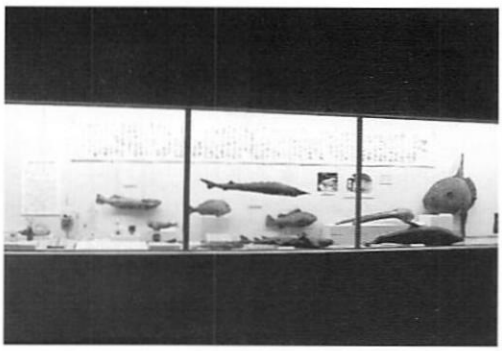
箱館戦記

－激動の時代と無名の志士達－

展覧会ポスター

平成14年度特別展「箱館戦記－激動の時代と無名の志士達－」は、平成14年７月13日(土)から９月22日(日)の72日間、五稜郭分館を会場に開催され、24,892人のお客様に来場・観覧いただきました。

箱館戦争は、特別展としてこれまでも幾度となく開催しておりますが、本年は、本来ならば主人公とでも呼ぶべき戦闘に参加した大多数の兵士（志士）達に焦点をあてて構成しました。箱館戦争の様子を伝える資料は、文献や絵画、言い伝え、発掘品等様々ですが、旧幕府方、新政府方の区別なく兵士一人一人を取り上げるには困難がありましたので、多くの場面に彼らの象徴として登場する「旗」と「しるし」「装束」を取り上げ、鳥羽・伏見の戦いから、五稜郭から降伏・開城するまでを時間に従って双方の資料を展示構成しました。戦場で掲げられる旗や印には自らの正当性の他に様々な意味や想いが込められています。中でも錦の御旗は、平安時代以来、天皇家の象徴として用いられ、近世から近代へと移行するこの時代、最新式の銃砲を装備した部隊によってふたたび正義の象徴として掲げられることになります。その他に藩旗、戦闘に使われた指揮旗、袖章、また赤熊（しゃぐま）・白熊（はぐま）等の被りものや軍服などは、総合学習で館を訪れた小中学生にも戦闘に参加した多くの将兵の姿を具体的にイメージする手掛かりになったことと思います。五稜郭分館のある特別史跡五稜郭跡は、戊辰戦争終結の地として人々の心に深く刻まれています。他にはない函館ならではのテーマとしてこれからも箱館戦争にこだわり続け、様々な切り口で特別展を開催していきたいと思います。



「当世珍奇・珍品事情」展示風景

「函館コレクション」観覧風景

東北戦争の資料展示風景

銃隊の軍服に見入る観覧者

平成14年度新収蔵資料展から資料紹介

船大工道具

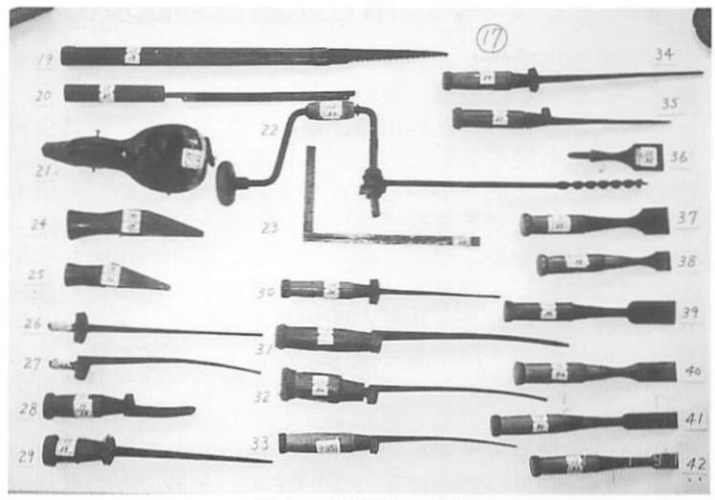
平成13年度に当館が受け入れた資料は6,185点にのぼります。受け入れた資料の分野も歴史・民俗・美術・自然など多岐にわたりますが、その中でも今回は民俗分野で２件のまとまった寄贈がありました。１件は平成11年度に調査を行った、市内古川町で昭和30年頃まで盛んであったイワシ漁に使用された漁業道具3,153点です。(調査概要についてはサラニップ39号をご覧ください) そしてもう１件は函館産業遺産研究会から寄贈された船大工道具1,875点です。ここではこの船大工道具について紹介します。

函館の造船業は江戸期から行われていますが、特に開港以降、和船・洋船両方の造船が盛んとなります。明治29年には函館ドックの前身函館船渠株式会社が設立され大型の造船も行われます。明治後期から大正・昭和にかけては北洋漁業の興隆により造船が非常に盛んとなります。

函館産業遺産研究会が収集した船大工道具の多くは大正から昭和30年頃まで多く造られた小・中型の木造船に使用する道具類です。高度経済成長期にはいるとＦＲＰの船が主流となり木造船は急激に姿を消していき、その道具も失われていきました。収集した道具のほとんどが市内あるいは近郊の造船所で働いていた人のもので、道具をみていくと多様な船に対応する函館の造船業の姿を垣間見ることができます。また、道具に施された刻印をみていけば、函館の鍛冶職人によって製作されたものが多数あり、函館がこのような道具類を大量に生産していたことも分かります。

今回の船大工道具は函館産業遺産研究会がすべて収集・調査し寄贈されたもので、詳細については同会から出された『北の船大工道具』を参照されたい。

保科　智治



船大工道具の一部

函館市市制施行80周年記念の展覧会報告

平成14年度企画展
函館のまちは唄う－笠島芳朗の世界－

この展覧会は、平成14年９月17日(火)から11月３日(日)まで、市立函館博物館本館にて開催されました。

「まちは唄う」は函館の地域の人々の表情を挿絵と文章で紹介するもので、平成10年から北海道新聞夕刊の地域情報版「函館新聞」で連載されています。今回は第１部から第５部まで－大門・駅前、湯の川、中島町・千代台町、谷地頭町・住吉町－の挿絵を一堂に集め、わずか数年前に描かれた挿絵の中にも変わりゆく函館の姿が見られることを紹介しました。

挿絵を担当した笠島芳朗は、第５部の挿絵を描き終え、病死しています。笠島は昭和８年に北海道南部の木古内町に生まれ、中学校や養護学校などで美術教諭として、特に障害のある子供たちに、絵画を通じて物の見方や豊かな心を育てようと熱心に教育しました。一方、中央画壇にも出品し、昭和50年代から近代日本美術協会を舞台に活動します。その受賞作品の中から北海道の風景を写実的に描いたものを紹介しました。会場では淡い水彩の挿絵と油彩による色鮮やかな大作が競演し、2,611名の来場者を魅了しました。

霜村　紀子

「まちは唄う」の挿絵を見る観覧者

平成14年度移動美術展
あーとふる・はこだて

この展覧会は、平成15年２月１日(土)から14日(金)まで、函館市・函館市教育委員会・(財)函館市文化・スポーツ振興財団主催で函館市芸術ホールギャラリーにて開催され、期間中1,287名が来場しました。

函館市の本庁舎や社会教育施設、小中学校などには絵画や書、彫刻などの美術作品が多数収蔵されていますが、移動美術展という形でお披露目するのは初めての試みです。今回は函館出身の作家や地域ゆかりの作家の絵画を取り上げました。幕末から明治の絵画界、画壇の形成と戦前の展開、戦後の復興とその後の展開と大きく３つのコーナーに分け、個々の作品を見るとともに、時代背景も感じ取れるようにしました。

古くは松前藩の家老蠣崎波響、明治に来函した平福穂庵や富岡鉄斎、昭和では函館出身の田辺三重松、岩船修三、橋本三郎ほか地元や中央画壇で活躍した油彩画家たちの作品が一堂に会しました。また、市民のリクエストに応えて展示したB.ビュッフェの油彩や、港まつりや観光ポスターも懐かしいと好評で、訪れた市民には新鮮な印象を与えた様子でした。

霜村　紀子

函館出身の画家の作品がずらり

市立函館博物館友の会　白鳳章受章の喜び

市立函館博物館友の会は、平成14年11月29日、平成14年度函館市文化団体協議会表彰の「白鳳章」受章の栄に浴しました。

友の会が選考された理由は、昭和45年発足時の役員会員、博物館職員が一体となって市民を対象にした幅広い事業、行事を展開し33年間、地道に文化活動を続けて伝統を築いてきたことの実績を認めてということで、友の会にとりましては大変名誉なことです。

市立函館博物館の歴史を顧みますと、昭和17年頃から市内の政財界人を中心に熱烈な新しい博物館建設運動が展開され、市民の知識向上と社会教育機関に位置づけた総合博物館が昭和41年に開館しました。博物館建設に係わった人々の情熱が、博物館を支え、学習し、市民へＰＲする集団として「友の会」を誕生させました。当初友の会の活動は博物館職員のリードによるものでしたが、次第に役員も係わり、しおりや絵はがき、調査報告書、展覧会図録の会員配布や来館者への頒布などが行われるようになり、33年の伝統に守られながら今日の活動に至っています。今後の友の会活動は、さらに友の会会員と博物館職員との連携をはかりながら、立派な博物館と活力ある友の会を目指して「白鳳章」の受章に応えていきたいと考えております。

市立函館博物館友の会会長　加納　裕之

白鳳章の表彰状と記念の楯

平成14年度博物館講座報告
新たな取り組み イワツバメとタンポポ

今年度は、初めての単講座として『タンポポの分布を調べてみよう』と『イワツバメを観察してみよう』の身近な自然についての理解を深めるとの思いで始めました。実は、この講座は今まで、自然観察を意図した通年講座の中で既に実施していたものを、親子を対象として実施したものです。タンポポもイワツバメも、街の中で普通に目にすることができるにもかかわらず、つい見落としてしまいがちな種類ですが、その在りようが自然度を測る上での重要な物差しとなっていると思われるものです。

まず、『タンポポを調べてみよう』は5月18日に、〈五稜郭〉とその周辺で14人の参加で実施しました。普通知られているタンポポが、外国から入ってきた帰化植物のセイヨウタンポポといわれている種類であること。東北・北海道に以前から生育しているのはのエゾタンポポという種類で、セイヨウタンポポに比べ数が少なくなっていることと、さらに見分け方を説明したのち、〈五稜郭〉の堀をまわり、函館東高校の〈ひんがしの森〉まで歩き、そこで見られるタンポポの種類を調べました。五稜郭の内堀には意外にエゾタンポポが多いこと、それも、セイヨウタンポポと共存していることが分かりました。さらに、〈ひんがしの森〉にはエゾタンポポの群落が数多くあることが分かり、参加者は「こんな身近なところに」と驚いていました。

『イワツバメを観察してみよう』は7月13日に〈緑の島〉を会場に25人の参加で実施しました。ツバメといえば、農家の納屋や牛舎の屋根裏に泥で巣を造るツバメを思い浮かべるでしょうが、ここでは、主に海岸や山岳の岩場に泥で巣を造るイワツバメの観察をしました。このツバメは人工の橋桁やビルのコンクリートなどにも巣を造ります。今回観察したイワツバメの巣は、〈緑の島〉に通じる橋桁の下に造られたもので、泥で造られた巣が南北にびっしりと並んでいます。巣は南側の方が多少多いようです。参加者は親鳥が、巣の中にいる雛に餌を与えるところを望遠鏡越しとはいえ間近に見ることができ、感激した様子でした。

佐藤　理夫

雨の中の観察会

平成14年度博物館講座開催表

ワークショップ（通年講座）

No.	講座名	開催期間	参加者数
1	古文書調査講座	14年4月14日(日)～15年3月30日(日)	14
2	自然観察入門講座	14年4月21日(日)～15年3月9日(日)	59
3	四季の星空観測講座	14年5月24日(金)～15年1月24日(金)	29

単講座

No.	講座名	開催期間	参加者数
1	探検!!もっと知ろうよ函館山	5月12日(日)	15
2	タンポポの分布を調べてみよう	5月18日(土)	14
3	春の星座観測（共催）	5月24日(金)	21
4	バスツアー　道南お宝の旅	6月9日(日)	49
5	砂浜の漂着物を拾ってみよう	6月15日(土)	8
6	本館展示解説セミナー「はこだて博物史」	6月16日(日)	19
7	スライド上映講座 梁川剛一の挿絵を見よう	6月22日(土)	3
8	七夕の星を見てみよう（共催）	7月5日(金)	21
9	イワツバメを観察してみよう	7月13日(土)	25
10	分館展示解説セミナー「箱館戦記」（2回）	7月19日(金) 8月2日(金)	18
11	夏休み自由研究 (1) 色を作って絵を描こう	7月21日(日)	15
12	夏休み自由研究 (2) 五稜郭探検隊	7月26日(金)	20
13	夏休み自由研究 (3) 鉄道車両の仕組みとJR見学会	7月30日(火)	47
14	親子で行く自然体験キャンプ（1泊2日）	7月31日(水)～8月1日(木)	8
15	夏休み自由研究 (4) 科学おもしろ講座ーもしも原子がみえたならー	8月6日(火)・7日(水)	13
16	夏休み自由研究 (5) 科学ミニ講座ードライアイスで遊ぼうー	8月8日(木)	29
17	博物館資料に触れてみよう ー大砲の弾は重いかな?ー	8月9日(金)	7
18	体験学習　土器を作ってみよう（2回連続）	8月10日(土)・24日(土)	13
19	手作りおもちゃをつくろう	8月16日(金)	16
20	植物画を描く（3回連続）（共催）	8月24日(土)・9月7日(土)・8日(日)	13
21	秋の星座と中秋の名月観望会（共催）	9月6日(金)	12
22	蓄音機を鳴らしてみよう	1月18日(土)	4
23	昔の函館を見よう ー語る大正・昭和の絵はがきたちー	2月1日(土)	3
24	木の葉を描いてみよう	2月22日(土)	12
25	函館大火を知ろう	3月22日(土)	25

新館長からあいさつ　水道局から来てみれば…

「サラニップ」さん、初めまして。02年４月に着任しました、佐野幸治と申します。生まれも育ちも水道局。水商売を生業として35年。前職は水道局営業部温泉事業課で、温泉の供給、サル山温泉で有名な市営熱帯植物園、そして市営谷地頭温泉を所管し、動植物と自然との付き合いの中で、色々な巡り会いを経験した２年間でありました。

４月、異動で博物館勤務、博物館とは「何ぞや」。単に「色々な物を展示するだけ」と考えていましたがさてさてである。資料の膨大さ、種類の複雑さ、部屋の数、これらを操る業務の量、さらに圧巻は歴史である。日本最古の地方博物館として、そして、総合博物館としての存在。

私は函館の水道は日本人の手による最初の上水道であると誇りに思い、これまで仕事をしてきましたが、何と博物館はそれを10年前まで遡る。「水商売」にまだ上があったのか。仕事への不安、ふあん…。

いざ仕事始め。その不安は膨らんだり、縮んだりの繰り返し。それを解かしてくれたのは、優秀なスタッフ達である。

02年は運良く？市制施行80周年を記念した行事等の多彩さ、特別企画展、そして最大はウラジオストク市沿海地方国立アルセニエフ博物館との姉妹都市提携調印。無事にスケジュール消化したときの快感は忘れられない（字数制限のため書けない）。

また、本館企画展を開始するまでの緊張、終了した時の喜び。そのほかの行事、いずれも印象が強かったが、今年度最後の行事となる移動美術展「あーとふる・はこだて」。開催の無事を願い、眠ってばかり。最後まで印象は尽きない。印象、印象…。私はついに印象派になってしまった。

最後になりますが、色々なことに対する「こだわり」と「協働」の大切さ、これが博物館ではないかと思う。

では、今後ともよろしくお願いします。また、「友の会」の皆さんにもお世話になります。

佐野　幸治

平成14年度新収蔵資料紹介

ここに掲載している新収蔵資料は、平成14年４月１日から平成15年２月28日までに受け入れたものです。

○寄贈資料

- 防衛食容器　１件１点　［函館市・藤野　節子氏寄贈］
- 函館大火災調査報告　他　５件12点　［札幌市・笹野　尚明氏寄贈］
- 脇差　１件１点　［函館市・竹内　桂輝氏寄贈］
- 岡持　他　２件７点　［函館市・本川　英雄氏寄贈］
- ポスター（北産のいか塩辛）　１件１点　［函館市・小田島　隆氏寄贈］
- 船用焼玉機関　１件１点　［函館市・函館産業遺産研究会寄贈］
- 『金子幸正素描撰』　１件１点　［函館市・稲木　ゆり氏寄贈］
- 白黒テレビ　他　20件32点　［函館市・渡辺　幸和氏寄贈］
- 写真（昭和３年の香港）　１件１点　［七飯町・橋本　真治氏寄贈］
- 西澤弥兵衛関係文書　806件1030点　［京都府・中西　勲氏寄贈］
- 写真　他　28件28点　［函館市・今井　栄一氏寄贈］
- 帰還者必携　１件１点　［函館市・長谷部　一弘氏寄贈］
- 樽製作道具　48件58点　［函館市・進通　トメ氏寄贈］
- ウミネコ　他　15件15点　［函館市・佐藤　理夫氏寄贈］
- ハイイロウミツバメ　他　７件８点　［北海道渡島支庁寄贈］
- タイマイ　他　６件７点　［函館市・堀内　ミドリ氏寄贈］
- ランプ　他　15件17点　［函館市・鍋谷　明氏寄贈］
- 原稿「永遠の友」　他　２件２点　［茨城県・加藤　英一氏寄贈］
- 箪笥　１件２点　［函館市・蠣崎　公江氏寄贈］
- 絵はがき　１件16点　［函館市・広川　錦子氏寄贈］
- ポケット日米會話　他　34件119点　［東京都・小野　一枝氏寄贈］

○登録資料

- 昭和13年水産陳列場日誌　他　13件15点

職員の異動紹介

本館	館長	佐野　幸治	（←水道局）
	管理係	熊谷　紘司	（←市民相談係）
	嘱託職員	佐藤　恒一	採用
	嘱託職員	山本　泰子	採用
五稜郭分館	分館長	渡部　毅	（←公会堂）
郷土資料館	臨時職員	白畑　耕作	採用
	臨時職員	湊　護	採用

市立函館博物館ホームページアドレス

http://www.museum.hakodate.hokkaido.jp

－誌名ＳＡＲＡＮＩＰ(サラニップ)について－
アイヌ語：シナの樹皮で編んだ袋。
博物館情報や研究成果などをＳＡＲＡＮＩＰに入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名したものです。

ＳＡＲＡＮＩＰ－サラニップ－No.42　2003.3.31発行
編集・発行　市立函館博物館
〒040-0044
函館市青柳町17－１(函館公園内)
Tel.0138-23-5480 Fax.0138-23-0831